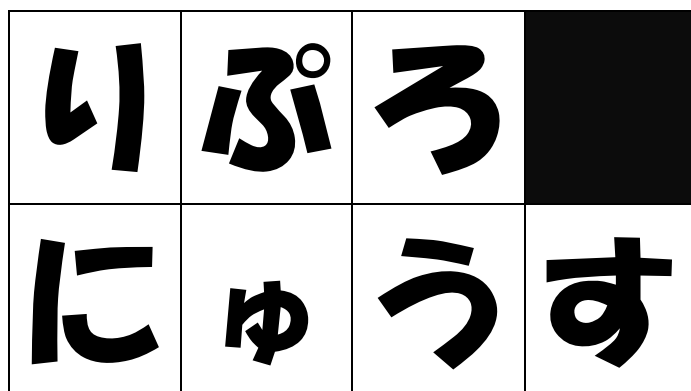




2019 年 12 月号 Vol. 56

編集・発行／リプロネットみやぎ

CONTENTS

- 若者のための市民活動体験 2019 開催報告
- 20 周年記念事業：大学生による性の健康を学ぶ、考える、知るための冊子（手引書）
進捗報告 vol.2

若者のための市民活動体験 2019 開催報告

参加した大学生たちに「性の健康」を自分自身の身近な 問題として捉えてもらえるように

この事業は仙台市男女共同参画財団の主催事業として2009年に始まりました。若者(大学生)を対象に、男女共同参画社会の実現に向けて取り組む仙台の市民活動団体の活動への理解を深め、次の世代につないでいく目的で、それぞれの活動を体験・理解してもらう場を提供するというものです。2017年からは実質的な運営団体であった「特定非営利活動法人イコールネット仙台」が事業を引き継いでいます。リプロネットみやぎではその主旨に賛同して初回から参加し、今回で11回目となります。今年度は17の団体が39の体験プログラムで大学生を受け入れました。

■リプロの活動理念を伝え、性の健康が自分の人生と深く関わっていることを理解する

きっかけの場

体験は11月27日(水)18:30～20:30、エル・パーク仙台・セミナーホールを会場に開催。東北学院大学から3年生6人、仙台白百合女子大から2年生2人、東北生活文化大学から4年生1人の計9人の女子学生が参加しました。

はじめに山口稔副代表が、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて、10分という時間の制約の中で、ポイントをおさえた解説を行いました。

次に2グループに分かれ、役員がファシリテーターとして加わって、ワークシートに沿ったグループ討議が行われました。ワークシートは従来から使用しているリプロ独自のもので、若い男女が付き合いを始め、セックス、避妊、妊娠、中絶、感染症の体験を経て、2人が別れるまでの模擬ケースを示し、そのストーリーの中から、自分の「性の健康」「関係性のありかた」などを考えてもらえるようにとまとめたものです。

ミーティングを終えた学生から一人ずつ意見や感想を述べてもらいました。普段友だちともあまり話すことのない性の問題について同世代の人たちと話し合ったことで、性についての判断が自分の人生に大きく影響してくることを知る有意義な時間となったとの感想に、リプロがこの事業に参加した目的を果たせたように思いました。

最後に土井豊副代表が、「リプロの理念の基本は自分の性を大事にすること、自分の性の主人公は自分」「そのためにはパートナーの性も大事に考えること」「性は人権」と総括。さらに「私はリプロを知ること、妻とそれまで以上お互いを尊重し合う幸せな関係性が深まった」と自身の経験を語り、「今日リプロと出会って、みなさんが幸せな人生を送ってほしい」と語りかけました。

〈参加した学生の感想〉

- ・自分に起こりえる内容だったので勉強になった。
- ・ピルの使い方、避妊の仕方、DV 被害者にならないためにも性について正しい知識が必要。
- ・正しい知識は自分を守る。
- ・性について「自分はこう思っているけど、みんなはどうなのだろう?」という疑問が、みんなの意見を聞くことで解消され、とても有意義な時間だった。
- ・昨年に続いて2度目の参加だったが、性についてまだまだ理解していないと実感した。
- ・今回ここで学んだことや話し合ったことを心にとめて、友だちにも伝えたい。
- ・自分のからだ、そして人生にきちんと向き合っていこうと思った。



「大学生による性の健康を学ぶ、考える、知るための冊子(手引書)」進捗報告 vol.2

リプロネットみやぎ創立20周年企画事業として進められている「大学生たちと一緒に作る、若い世代が性の健康について学ぶための冊子編集プロジェクト」のミーティングは、講義や実習の合間をぬって、月1回村口クリニックで開催されます。

現在の主要なテーマは「月経」。月経の仕組みへの正しい知識を習得し、月経によって女性のからだどころに起きる様々な影響や変化、妊娠、避妊へなどへの理解を深めていきます。

毎回次回までの課題が与えられ、8人の学生の皆さんは、それぞれ看護師、助産師、養護教員など将来の職業を視点を踏まえて考えをまとめ、ミーティングの場でプレゼンテーションを行います。必要に応じて、村口代表、船山先生が質問に答え、アドバイスをを行います。

■第4回ミーティングが11月14日(木)に行われました。

第3回ミーティングで与えられた課題・「中高生に「月経」をどのように伝えるか」についてのプレゼンテーションが行われました。

・**看護学科G**:「妊娠の成立と月経の仕組み」を子宮の図版やイラストを交えたスライドで解説。用語や見せ方をできるだけわかりやすく示していこうという工夫がありました。

・**福祉心理学科G**: 月経周期とそれに合わせて起きる症状や気分の変化を重ねて見せることで、月経が女性のからだと気持ちにどう影響しているか実感できるようにという工夫がありました。

プレゼンテーションの内容を基に、伝える相手の生徒たち個々の月経についての知識のレベルの違いをどのように考慮していくか、「主体は自分」「性は人権」などリプロの考えを情報にどのように盛り込んでいくかという新しいテーマが与えられました。

代表は「関係性」について触れ、「女性のからだは妊娠するようにできている。だから大変、だから大切」「自分が理解するだけでなく、パートナーや周囲の人々に理解してもらうことが大事」と関係の重要性について語りました。

第5回ミーティングは12月17日(火)に開催。グループごとに冊子の流れ(ページ建て)のたたき台を提案します。

(担当:村上)

リプロネットみやぎ事務局

FAX:022-292-0167 e-mail:repro@muraguchikiyo-wcklinic.or.jp